

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3372600209		
法人名	有限会社 おおむら		
事業所名	グループホームさくらそう		
所在地	岡山県都窪郡早島町早島2953-4		
自己評価作成日	平成29年7月6日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JivvosyoCd=3372600209-00&PrefCd=33&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社東京リーガルマインド 岡山支社		
所在地	岡山県岡山市北区本町10-22 本町ビル3階		
訪問調査日	平成29年7月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・庭で野菜を育て利用者様と一緒に収穫し、新鮮かつ旬の物を提供しています。 ・会話を重視し、個々に合った支援が行えるよう努力しています。 ・ゆったりとした空間の中で安心かつ安全にまた充実した生活を営めるようサービスを提供しています。 ・ご利用者様の残存機能の維持向上に努め、楽しんでできる生活リハビリを実施しています。 ・外出や季節感を味わえる各種行事にも積極的に取り組んでいます。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>まず、地域との交流がこの短期間で以前より深まっていることに驚いた。自治会長には、運営推進会議の案内は自宅に直接届け、都合をその場で確認する等、丁寧に対応するようにしている。地域のサロンにも毎月職員の誰かが出席し、地域の人たちと交流を深め、話しが尽きず二時間近く過ごす時もある。自治会長に町内の溝掃除に参加したいと申し出て、皆と一緒に清掃をした。ゴミを収集する迄の待ち時間、冷たい麦茶を提供し大変喜ばれた。地域の人達に「災害があった場合は協力してほしい」とお願いしたところ、快く引き受けてもらえる関係にまで築けている。地道な努力が、地域と事業所を繋ぐ架け橋となっている。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「私達は、利用者様も職員も笑顔いっぱいの施設をつります」の理念のもと、明るく、元気な職場を目指し、理念教育を目指している。又、理念を共有できる様に事務所に掲示しており、朝礼時には唱和を行っている。	理念の「笑顔いっぱい」を目指し、いつも事業所内で笑いが絶えないように努めている。職員は気負わず、自分の失敗談や夫婦間の出来事、そして子どもや孫の事等を利用者に話し、笑いを誘っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議の際、地域の催し等を教えて頂き、利用者様と参加できるものは参加させて頂いている。また、運営推進会議の日程に合わせて、施設の行事を開催している。	毎月、地域のサロンに職員が参加し、事業所についての質問等に答え、参加者との交流を深めている。今年から地域の清掃に参加し、ごみを収集する迄の待ち時間、麦茶を提供し住民から大変喜ばれた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通じて地域の方にも施設の行事や、イベントに参加してもらえるように話をしている。また、9月には認知症の理解をして頂く為に中学生が職場体験として来所予定。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、施設での取り組みを報告し、アドバイスや質問を頂いている。イベントもアドバイスを頂いた意見を参考に企画している。	事業所の取り組みを伝えると、参加者から「良い取り組みをしている」と称賛される。先日「ボランティアと繋がりを持ちたい」旨を伝えると、社会福祉協議会の職員が帰社後早々にパンフレットを用意してくれた。	家族の参加が無いので、家族にも声を掛け、職員や外部者へ意見を表せる場にして欲しい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	推進会議には、地域包括支援センター、早島町、居宅、自治会長様に毎回参加して頂いています。他の施設の情報を色々教えていただき、地域の方々と一緒に中身の濃い推進会議を目指している。地域の清掃やサロンにも参加し繋がりを密にしたい	地域のサロンに地域包括支援センターや社会福祉協議会の方が参加しているので、交流の機会が多い。困難事例等があれば色々アドバイスももらえ、助けてもくれる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	7月の内部研修にて、「身体拘束について」職員一同学びを深めています。その他にも日々、身体拘束がないか確認し合っている。	身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。先日身体拘束について社内研修を実施した。管理者は特に「スピーチロック」を気をつけて欲しいと願っている。利用者を言葉で押さえつける行為は、相手を傷つけてしまう為、細心の注意を払うように指導をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	7月の内部研修にて、「虐待防止について」職員一同学びを深めています。言葉や介助での虐待は職員同士で話し合い、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	8月の内部研修にて、「成年後見制度について」職員一同学びを深めています。又、後見人についての相談もあり、助言や対応もさせて頂いている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に入居者様やご家族への説明をしっかりと行い、十分理解の上でご入居頂いている。入居後も不安や疑問等聞き対応できるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時には、ご家族とコミュニケーションをはかり、要望等常に聞くようにしている。又、毎月の取り組みを通信としてご家族に配布している。	家族とのコミュニケーションを図り、信頼関係が深まるように努めている。県外に住む利用者の姉を、この事業所の対応が良いから、入所を決めた家族もいる。信頼関係が出来ている証拠でもある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1度運営会議を行い、会議内容を、職員会議にて周知し話し合う場を持っている。問題がある場合には管理者に報告してもらい、反映できるように努力している。	管理者は職員から意見が出た時は、自分一人で決断はせず、他の職員にも確認してから実行をしている。部屋の模様替えも、職員間で相談しながら配置を考えてもらっている。出来る限り職員が主導で考え、実行してもらっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている	各職員とコミュニケーションを取り、状況を把握して問題解決に努めている。向上心を持って働いてもらうためにリーダー制度を設けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月の社内研修と社外研修への参加を呼びかけて、各職員に参加してもらっている。又、研修を自己選択できるようにしており、自己が深めたい知識を学べる機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設と交流を兼ねて、月1回の勉強会を開催している。グループワークもあるので、様々な見解やアドバイスを頂き、サービスの向上に繋げている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメント・カンファレンス等で情報を収集することにより職員間で情報を共有し、入居者様に寄り添い、不安等を取り除くよう心掛けている。担当制を導入し情報交換を密に行っている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申し込み・契約時にはまず、ご家族の要望・不安をうかがい、それを基に本人と話をした上でサービス・支援の参考にさせて頂いている。ご家族の不安や親戚に対する思いを傾聴し、まずはご家族様の不安を取り除き信頼関係を築いています		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人・ご家族の要望を職員間で共有し、要望に沿ったサービスを行い、他のサービスも考えている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご家族様と同じ思いを忘れず、一日の生活を通してできる事はして頂き、なるべく行事・行動等、本人がやりたいことに参加して頂けるようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時・月に1度の手紙での現状報告をしている。面会時には、その都度、要望を伺い、相談も行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や、親族、知人の面会時にはゆっくり会話が出来る様配慮している。時にはご家族の要望によりお茶を一緒に飲むなどして場を和ませるよう配慮している。訪問理美容の受け入れや、家族と墓参りに行けるよう支援している。移動パン屋訪問では好みのパンを購入して楽しんで頂く	一部の利用者を除いては家族の面会は多い。クリスマス会、敬老会、夏祭り等の行事には、出来る限り家族に参加してもらい、利用者との交流を楽しんでもらっている。お盆、お彼岸には必ず墓参りに連れて行ってくれる家族もいる。先日は、弟の葬式にも参列することが出来た。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	集団レクや日々の利用者様とのコミュニケーションを支援しています。また、大きいイベントの際は、1階と2階合同ですることにより、利用者様同士関係を深められるよう支援している。誕生日会ではお互いお祝いメッセージを交わし共有している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も何かあった際には相談してほしい旨、退去時に話をしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時には過去の生活歴等をヒアリングし、今までの生活を入居してからの生活に活かせるよう、カンファレンスの際にしっかり話し合っている。	利用者の表情、動き、声のトーン等で、思いの把握に努めている。共有スペースに居る時、だるそうにしている場合は「居室でお休みされませんか」等、顔色を見ながら声掛けをしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にご家族、ご本人やケアマネジャーからヒアリングを行い把握した情報をアセスメントシートに記入し、カンファレンスで職員に伝えたのちに入居頂いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の申し送りでその日の状態・状況を共有し、日々の変化は申し送りノートで共有し把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居時に本人、家族やケアマネジャーからの要望を聞き、計画書を作成している。入居後は利用者の様子を観察し、利用者にとって一番良い介護支援は何かと職員と話し合い、計画を作り直している。	利用者の介護支援に対して、「この支援の方が利用者の為になるかも」と思えば実施してみ、結果をケアマネジャーに報告している。試した支援が良かった場合は、介護計画に取り入れてもらっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録に詳しく残すよう努めている。朝礼、申し送り、連絡ノート等を活用して職員が情報共有し介護の実践が出来る様努力している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様やご家族の状況も考慮し、買い物・散髪等の対応をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	天候や気温に応じて散歩をしたり、庭の水やりや草抜きなど手伝ってもらっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回かかりつけ医の往診があり、ご家族の了承のもとに診察を受けている。又、希望の病院も受診できるよう考慮している。	入所時、家族にかかりつけ医の希望を聞いている。ほとんどの利用者は協力医に変更しているが、以前からのかかりつけ医を継続している家族もいる。全員の先生が往診してくれる。いつ連絡しても対応してもらえるので心強い。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	かかりつけ医の看護師に週1回診てもらい、入居者様の健康チェック・管理・相談をしている。状態変化等あれば、医師に相談・指示を仰ぎ対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、入居者様の詳細な情報を提供し、かかりつけ医と情報を常に共有している。入院時も面会に行き、状況確認している。退院決定時には、日常生活が送れるよう、病院関係者と情報の共有し、日程を調整している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時には、看取りの指針を明確にし、希望を聞いている。又、かかりつけ医と相談し必要に応じ対応できるようにしている。	職員は関わりが深い利用者を最期まで世話したいと考え、現在研修に参加し、内部研修も実施している。入所時に、「医療行為が必要でなければ終末期の対応をします」と話をしているが、重度化した場合は、再度先生を交えて家族と相談をしている。	現在看取りに関する研修を実施している。家族、医師、職員が連携を図り、安心して納得した最期を迎えられるように、研修を重ねて欲しい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	実践的な訓練は行えていませんが、緊急時対応マニュアルを作成し、急変の対応方法を統一している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防計画書を作成し、年に2回消防訓練を行っている。今後も地域・消防署と連携していき職員にも周知徹底できるよう努める。	年2回の避難訓練の内、1度は消防署が参加し、訓練内容を確認して意見をもらっている。運営推進会議の場でも自治会長に協力依頼をしている。溝掃除に参加した時も、近隣の方達に協力をお願いしたら、快く引き受けてくれた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	コミュニケーションの際、言葉使いに注意し、丁寧な対応で一人一人を尊重するよう心掛けている。行事には入居者の嗜好を取り入れ、反映させている。	言葉かけには特に注意を払い、言葉の内容や語調等が、利用者の誇りを傷つけないように努めている。居室内の清掃をする際も、必ず利用者に許可を得てから居室に入っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で、要望を傾聴できる環境を作っている。自己選択・自己決定ができるよう考慮している。又、入居者様からやりたいこと等を聞いて行事として組み入れている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴時間や食事時間等、個々のペースに合わせてるようにゆったりした時間配分になっている。個々によって希望されることが違うが、意に沿えるようレクリエーションを行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装は、日々利用者様に選んでもらっている。またご家族様と相談し、新しい衣装を用意してもらえるようお願いしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	手作りご飯の際には献立の中に好みを取り入れるよう工夫している簡単な盛り付けや片づけを行ってもらい職員と利用者は一緒に食事をしている。	主食と汁物は事業所で作る為、ケータリングの日は、混ぜご飯にしたり、果物を添えたり等、ひと手間を加えている。毎週移動パンに来てもらい、自ら好きなパンを選び、次の日の朝食やおやつに提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事量と水分量をチェックし、体重と合わせて把握している。ケータリングのバランスの良い食事と、週2回の家庭的な手作りご飯を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声掛けでなるべく自力で食後の口腔ケアを行ってもらっている。自力でのケアが難しい方は介助にて行う。嚥下訓練も毎日行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄はトイレを基本とし、排泄パターンを把握して随時に誘導している。個々の残存機能を活用し、できることはして頂き、難しいところは手伝っている。羞恥心にも配慮している。	座位が取ればおむつは使用せず、定期的にトイレへ誘導をしている。それは、利用者にトイレで排泄する行為を忘れて欲しくないとの思いからでもある。トイレの外で見守り、下着を下ろす手伝いをする時も、必要以上に下げない様にして、羞恥心にも配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘防止の為、ヨーグルト・牛乳の提供をしたり、体操等の運動の働きかけで、出来る限り薬に頼らず自然排便がみられるように支援をしている。時間誘導を行い 怒責訓練を無理なく行う		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の意向を確認の上、入浴の誘導をしているが、拒否時には本人に納得してもらえる声掛けを工夫したり日をずらしたりして気持ちよく入浴できる支援をしている。	利用者が嫌がる事はしない様、声かけをしながら確認をしている。水が顔にかかるのを嫌がる利用者には、シャンプーハットを使用する工夫もしていたが、「洗われる」ではなく「自分で洗う」方法に変えて抵抗が少なくなった。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様が休みたいときには個々のタイミングで休息してもらったり、安心して夜間睡眠がとれるよう、静かで快適な空間を提供している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師から職員に薬の説明をし、疾患や既往歴、何のために内服しているのかを理解するようにしている。また、内服時の変化がないか観察し、小さな変化でも看護師に報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意なことや好きなことをしてもらえるように個別の対応ができるようにしている。気分転換に散歩やドライブ、毎月イベントを企画して楽しみごとの支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	定期的な行事や外出を企画して外に出て季節を感じてもらおうようにしている。その日の希望に応じて散歩にも出かけている。近隣の地域行事に参加出来るよう推進会議で話し合っている。	外出の際、利用者が食事も外食を希望すれば外食にも付き合う。今回花見に、「後楽園と近所の公園どっちに行きたいか」と利用者に尋ねたところ、「後楽園に行きたい」との返事だったので、距離はあるが出掛けた。利用者は大変喜び、何ヶ月経った今でも「良かった」と話題によく上がっている。	現在は皆で一緒に外出したり外食したりしている。今後は利用者の希望を取り入れた個別外出を検討したいと考えている。実現に期待を寄せる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に施設でお金を持っている利用者様はいないが、外出時はご家族に伝えお小遣いで買い物をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば電話を貸し出したり、手紙が出せるように一緒に書く等の支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室温、湿度の管理に努め、湿度は60%を切らない様に定期的に確認し、必要に応じて加湿器で対応している。季節に応じた壁画作り等を利用者様と一緒にしている。トイレやお風呂に張り紙をしてここが何の部屋かわかりやすくしている。	利用者の状況に合わせてその都度椅子の配置を変え、居心地良く過ごせる工夫をしている。庭はいつでも出入り自由で、洗濯物を干したり取り込んだり、畑の草抜きをしたり、野菜の収穫したりして、楽しんでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関口にベンチを設置し、畑の野菜や花を見ながら利用者様が落ち着いて過ごせる場を提供している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に本人様やご家族様と相談し、使い慣れた家具等を持ち込んでもらい、居心地の良い、その人らしい空間を作れるようにしている。	家族に利用者の使い慣れた物を持ち込んで欲しいと伝えているが、なかなか自宅から持ち込まれる人は少ない。既成のカレンダーより、彩りも良く華やかになるので、毎月利用者と職員の共同作業で作ったカレンダーを飾っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来る事は見守り、自己決定・自己選択を行い、残存機能の向上を目指し自立への支援を心がけている。必要以上に物を置かない等、安全に生活が送れる環境を提供している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3372600209		
法人名	有限会社 おおむら		
事業所名	グループホームさくらそう		
所在地	岡山県都窪郡早島町早島2953-4		
自己評価作成日	平成29年7月6日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・庭で野菜を育て利用者様と一緒に収穫し、新鮮かつ旬の物を提供しています ・会話を重視し、個々に合った支援が行えるよう努力しています。 ・ゆったりとした空間の中で安心かつ安全にまた充実した生活を営めるようサービスを提供しています。 ・ご利用者様の残存機能の維持向上に努め、楽しんでできる生活リハビリを実施しています。 ・外出や季節感を味わえる各種行事にも積極的に取り組んでいます
--

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosyoCd=3372600209-00&PrefCd=33&VersionCd=022
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社東京リーガルマインド 岡山支社		
所在地	岡山県岡山市北区本町10-22 本町ビル3階		
訪問調査日	平成29年7月20日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「我々は、利用者様も職員も笑顔いっぱいの施設をつります」の理念のもと、明るく、元気な職場を目指し、理念教育を目指している。又、理念を共有できる様に事務所に掲示しており、朝礼時には唱和を行っている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議の際、地域の催し等を教えて頂き、利用者様と参加できるものは参加させて頂いている。また、運営推進会議の日程に合わせて、施設の行事を開催している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通じて地域の方にも施設の行事や、イベントに参加してもらえるように話をしている。また、9月には認知症の理解をして頂く為に中学生が職場体験として来所予定。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、施設での取り組みを報告し、アドバイスや質問を頂いている。イベントもアドバイスを頂いた意見を参考に企画している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	推進会議には、地域包括支援センター 早島町 居宅 自治会長 様に毎回参加して頂いています。他の施設の情報を色々と教えていただき、地域の方々と一緒により中身の濃い推進会議を目指している。地域の清掃やサロンにも参加し繋がりを密にしたい		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	7月の内部研修にて、「身体拘束について」職員一同学びを深めています。その他にも日々、身体拘束がないか確認し合っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	7月の内部研修にて、「虐待防止について」職員一同学びを深めています。言葉や介助での虐待は職員同士で話し合い、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	8月の内部研修にて、「成年後見制度について」職員一同学びを深めています。又、後見人についての相談もあり、助言や対応もさせて頂いている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に入居者様やご家族への説明をしっかりと行い、十分理解の上でご入居頂いている。入居後も不安や疑問等聞き対応できるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時には、ご家族とコミュニケーションをはかり、要望等常に聞くようにしている。又、毎月の取り組みを通信としてご家族に配布している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1度運営会議を行い、会議内容を、職員会議にて周知し話し合う場を持っている。問題がある場合には管理者に報告してもらい、反映できるように努力している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員とコミュニケーションを取り、状況を把握して問題解決に努めている。向上心を持って働いてもらうためにリーダー制度を設けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月の社内研修と社外研修への参加を呼びかけて、各職員に参加してもらっている。又、研修を自己選択できるようにしており、自己が深めたい知識を学べる機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設と交流を兼ねて、月1回の勉強会を開催している。グループワークもあるので、様々な見解やアドバイスを頂き、サービスの向上に繋げている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメント・カンファレンス等で情報を収集することにより職員間で情報を共有し、入居者様に寄り添い、不安等を取り除くよう心掛けている。担当制を導入し情報交換を密に行っている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申し込み・契約時にはまず、ご家族の要望・不安をうかがい、それを基に本人と話をした上でサービス・支援の参考にさせて頂いている。ご家族の不安や親戚に対する思いを傾聴し、まずはご家族様の不安を取り除き信頼関係を築いています		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人・ご家族の要望を職員間で共有し、要望に沿ったサービスを行い、他のサービスも考えている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご家族様と同じ思いを忘れず、一日の生活を通してできる事はして頂き、なるべく行事・行動等、本人がやりたいことに参加して頂けるようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時・月に1度の手紙での現状報告をしている。面会時には、その都度、要望を伺い、相談も行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や、親族、知人の面会時にはゆっくり会話が出来る様配慮している。時にはご家族の要望によりお茶を一緒に飲むなどして場を和ませるよう配慮している。訪問理美容の受け入れや、家族と墓参りに行けるよう支援している。移動パン屋訪問では好みのパンを購入して楽しんで頂く		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	集団レクや日々の利用者様とのコミュニケーションを支援しています。また、大きいイベントの際は、1階と2階合同ですることにより、利用者様同士関係を深めれるよう支援している。誕生日会ではお互いお祝いメッセージを交わし共有している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も何かあった際には相談してほしい旨、退去時に話をしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時には過去の生活歴等をヒアリングし、今までの生活を入居してからの生活に活かせるよう、カンファレンスの際にしっかり話し合っている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にご家族、ご本人やケアマネジャーからヒアリングを行い把握した情報をアセスメントシートに記入し、カンファレンスで職員に伝えたのちに入居頂いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の申し送りでその日の状態・状況を共有し、日々の変化は申し送りノートで共有し把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居時に本人、家族やケアマネジャーからの要望を聞き、計画書を作成している。入居後は利用者の様子を観察し、利用者にとって一番良い介護支援は何かと職員と話し合い、計画を作り直している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録に詳しく残すよう努めている。朝礼、申し送り、連絡ノート等を活用して職員が情報共有し介護の実践が出来る様努力している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様やご家族の状況も考慮し、買い物・散髪等の対応をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	天候や気温に応じて散歩をしたり、庭の水やりや草抜きなど手伝ってもらっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回かかりつけ医の往診があり、ご家族の了承のもとに診察を受けている。又、希望の病院も受診できるよう考慮している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	かかりつけ医の看護師に週1回診てもらい、入居者様の健康チェック・管理・相談をしている。状態変化等あれば、医師に相談・指示を仰ぎ対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、入居者様の詳細な情報を提供し、かかりつけ医と情報を常に共有している。入院時も面会に行き、状況確認している。退院決定時には、日常生活が送れるよう、病院関係者と情報の共有し、日程を調整している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時には、看取りの指針を明確にし、希望を聞いている。又、かかりつけ医と相談し必要に応じ対応できるようにしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	実践的な訓練は行えていませんが、緊急時対応マニュアルを作成し、急変の対応方法を統一している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防計画書を作成し、年に2回消防訓練を行っている。今後も地域・消防署と連携していき職員にも周知徹底できるよう努める。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	コミュニケーションの際、言葉使いに注意し、丁寧な対応で一人一人を尊重するよう心掛けている。行事には入居者の嗜好を取り入れ、反映させている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で、要望を傾聴できる環境を作っている。自己選択・自己決定ができるよう考慮している。又、入居者様からやりたいこと等を聞いて行事として組み入れている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴時間や食事時間等、個々のペースに合わせてるようにゆったりした時間配分になっている。個々によって希望されることが違うが、意に沿えるようレクリエーションを行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装は、日々利用者様に選んでもらっている。またご家族様と相談し、新しい衣装を用意してもらえるようお願いしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	手作りご飯の際には献立の中に好みを取り入れるよう工夫している簡単な盛り付けや片づけを行ってもらい職員と利用者は一緒に食事をしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事量と水分量をチェックし、体重と合わせて把握している。ケータリングのバランスの良い食事と、週2回の家庭的な手作りご飯を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声掛けでなるべく自力で食後の口腔ケアを行ってもらっている。自力でのケアが難しい方は介助にて行う。嚥下訓練も毎日行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄はトイレを基本とし、排泄パターンを把握して随時に誘導している。個々の残存機能を活用し、できるところはして頂き、難しいところは手伝っている。羞恥心にも配慮している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘防止の為、ヨーグルト・牛乳の提供をしたり、体操等の運動の働きかけで、出来る限り薬に頼らず自然排便がみられるように支援をしている。時間誘導を行い 怒責訓練を無理なく行う		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の意向を確認の上、入浴の誘導をしているが、拒否時には本人に納得してもらえる声掛けを工夫したり日をずらしたりして気持ちよく入浴できる支援をしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様が休みたいときには個々のタイミングで休息してもらったり、安心して夜間睡眠がとれるよう、静かで快適な空間を提供している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師から職員に薬の説明をし、疾患や既往歴、何のために内服しているのかを理解するようにしている。また、内服時の変化がないか観察し、小さな変化でも看護師に報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意なことや好きなことをしてもらえるように個別の対応ができるようにしている。気分転換に散歩やドライブ、毎月イベントを企画して楽しみごとの支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	定期的な行事や外出を企画して外に出て季節を感じてもらおうようにしている。その日の希望に応じて散歩にも出かけている。近隣の地域行事に参加出来るよう推進会議で話し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に施設でお金を持っている利用者様はいませんが、外出時はご家族に伝えお小遣いで買い物をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば電話を貸し出したり、手紙が出せるように一緒に書く等の支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室温、湿度の管理に努め、湿度は60%を切らない様に定期的に確認し、必要に応じて加湿器で対応している。季節に応じた壁画作り等を利用者様と一緒にしている。トイレやお風呂に張り紙をしてここが何の部屋かわかりやすくしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関口にベンチを設置し、畑の野菜や花を見ながら利用者様が落ち着いて過ごせる場を提供している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に本人様やご家族様と相談し、使い慣れた家具等を持ち込んでもらい、居心地の良い、その人らしい空間を作れるようにしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来る事は見守り、自己決定・自己選択を行い、残存機能の向上を目指し自立への支援を心がけている。必要以上に物を置かない等、安全に生活が送れる環境を提供している。		